

第1回長崎県総合計画・総合戦略懇話会（にぎわい・まち部会）

日時：令和7年1月27日（月）16：50～17：45

場所：長崎県庁大会議室C

■（事務局：川端企画部次長）

それでは時間が参りましたので、にぎわい・まち部会を始めさせていただきたいと存じます。

私、事務局を務めます企画部の川端と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本部会におきましては、部会のテーマであります。

先ほど5本の柱につきましてご説明させていただきましたが、一旦、にぎわいとまちにつきまして、各委員の皆様の専門的な視点から、ご意見ご提案をいただきたく存じます。

なお先ほど全体会の方でもフィードバックですね、ご議論によっては、中身がこう行ったり来たりしながら検討を進めていくですとか、あと部会間の横串というご意見もありましたので、そういったことも含めて議論していく必要があるかと存じますので、部会のテーマ資料等に関わらず、幅広く忌憚のないご意見をいただきたくと存じます。

それでは黒木部会長からご挨拶をいただき、部会の進行をお願いしたいと存じます。

黒木部会長どうぞよろしくお願いいたします。

■黒木部会長

「にぎわい・まち部会」の部会長を務めさせていただきます黒木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほどご挨拶させていただきましたが、個別・具体的な課題につきましては、委員の皆様がやはりご専門かと思しますのでぜひ、忌憚のないご意見を頂戴いたしまして、よりよい総合計画づくりに貢献させていただきたいと思しますので、引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、本部会で議論する論点や方向性及び部会で使用する資料について、事務局の方からご説明の方よろしくお願いいたします。

■（事務局：川端企画部次長）

私から説明させていただきます。着座で失礼いたします。ご説明を始めますに際しまして皆様お手元に資料がたくさんあって恐縮なんですが、全体会で使用いたしました資料と、それから別冊資料がございます。資料をまずお手元にご準備をお願いいたします。

今からの部会でご議論いただきたい点が2つございます。

まず1つ目が、全体会の資料で言いますと17ページになりますけれども、時代の潮流、それから本県の課題・強みについて、全体的なことを先ほどご説明いただきましたけれども、今後、その総合計画をどういった方向性で進めて検討していくかという時に、今の時代を取り巻く潮流ですとか、あとそれを踏まえて、本県にはどういった課題があるのか、そして本県のポテンシャルとして、どういった強みがあるのかというところをしっかりと押さえた上で、議論をしていく必要、そして施策を検討していく必要があると考えております。

それで17ページの方ですけれども、左側は現行計画ということで、今から5年前、令和2年ぐらいの時点で、検討しました潮流、課題、強み、それから5年経過して今があるわけですけれども、

現状において、時代がどうなっているのか、本県の課題はどうなったのか、そして、今ある本県の強みというのはさらになんだろうかというところをご議論いただければと思います。その際には17ページの方には、項目のみ記載しておりますけれども、別冊資料の方に、1つ1つの方で、まず事務局の方からいろいろ国の資料ですとか、諸々のものからも抽出して、そして私たちが現状、施策を実施する中で押さえております潮流ですとか課題を一旦まとめさせていただいております。

これを踏まえて右の方に施策の展開とか、方向性の視点方向性を記載しておりますけれども、これについて、皆様方にもう一度見ていただいでですね、漏れているものがないかとか、本当はもっとこっちじゃないのか、そういったご議論を深めていただければというふうに考えております。

そして2点目なんですけれども、先ほどもご議論いただいたところでもありますが、こういった潮流、課題・強みを踏まえた時に、長崎県が施策の柱立てですとか、あとそれを実現していくための基本戦略、施策というのを考えるときにもう一度、深掘りしたご議論をしていただきたいと考えております。その時に全体資料の28ページというのを見ていただきますと、柱とそれから基本戦略のところを今日は特にご意見を賜りたいのですが、それを考えていく中で、冒頭知事の方からも新しい長崎県づくりビジョンも溶け込ませていきますという話がありましたが、こういったビジョンの中で、今、盛り込んで中身をどういった柱のところに組み込んでいくかとか、あと時代の潮流とか、現況を取り巻く中で、この柱の中にどういったキーワードを盛り込んでいきたいのかというところを28ページには落とし込ませていただいておりますので、こちらも見えていただきながら、この柱の中では、どういった取り組みをやっていくのか、基本戦略なのかというところをご議論いただければと思います。

先ほど地域コミュニティのところ、まちで良いのではないかとのお話もあったのですが、私どもの今の資料上は暮らしの中の上から2つ目の欄のところに地域コミュニティがあったりとかしますけれども、そこは特にこだわりなく、ご議論いただければと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。少し全体構造がわかりにくいと思うのでもう一度、全体の構造を説明させていただくと、全体資料の11ページをご覧くださいと思います。今の令和7年度までの現在の計画のものになるんですけれども、今日は基本理念、左側のところも先ほどご議論いただきましたが、その柱、現行は3つのところを5つにしていってはどうかというお話を先ほどさせていただきました。それを実現するための、また少し細分化した基本戦略があると、その後に施策ということで、具体的に個別な取組をどうしていくかという議論がさらに深まっていくというイメージでございますので、こういう構成になるんだなということもイメージしていただきながら、ご議論頂戴できればと思います。

時代の潮流のところの別冊資料の中で、施策の展開の視点とか方向性というのを事務局の方で書いておりますけれども、これは何なのかというと、11ページでいうところの施策をもう少し大括りしたような方向性というふうな形でご覧になっていただければと思いますので、この施策を組み立てていくための、道筋的なものになりますので、足りてないところとか、もっとこっちじゃないかというところは、そういった意味で見ていただければと思っております。私からの説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

■黒木部会長

それでは事務局からの説明ありましたように、本日の部会では、論点を2点に絞って意見交換をお願いしたいと思います。

まず１点目の論点ですけれども、次期計画を策定するにあたり、社会経済情勢の変化も踏まえる必要があるという考え方から、時代の潮流や本県の課題・強みを県の方で整理していただいております。

先ほどの全体会では、資料１７ページで項目一覧が示されておりましたけれども、別冊資料として、各項目の詳細が記載されているものが準備されております。こちらの別冊資料を見ますと先ほど議論もありましたが、地域コミュニティ、そして知事のお言葉にもありました離島振興などといった項目がございます。本部会の委員の皆さんの専門分野にも関係がある内容が記載されているようです。この別冊資料も参考にしながら、各委員の皆様がそれぞれの専門的知見や経験から把握されている長崎県に影響を与える国内外の状況、長崎県の課題や強みについてのご意見をいただければと思います。また、課題などを踏まえて、長崎県としてどのような対応が考えられるかというご意見もいただければ、次の検討段階において役立つと思いますので、ご意見があればよろしく願いたします。

なお別冊資料の項目や記載内容にとらわれ過ぎますと意見が出にくいと思いますので、もう自由に、それぞれのご指摘から大所高所から、ご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしく願いたします。

それではまず１点目についてですけれども、皆様からのご意見を頂戴できればと思いますよろしく願いたします。

■星野委員

これからも人口減少が起こっていく中で、先ほど勝ち抜くみたいな話があったかと思うんですけど、どちらかというと人口が減少していくものとして、そういった人が減っていく中でも、いかに今の生活を維持できるか、その減った世界の中でもちゃんと暮らしていけるかと。その自立していくというところに軸足を置いて考えていくというのも１つの手なのかなと思いました。外から得るですとか、外に流れていっても、それはまた戻ってくるように何かこう得るものを考えるというのも１つなんですけれども、もう減るものとして、この持っているものをどう活用していくか、そういった観点でも良いかなと思っています。

■黒木部会長

厳しい現状を踏まえた上で、現状を見据えた上でどうするかということが大事ではないかというご意見かなとご理解をさせていただきました。ありがとうございます。

それではせっかくですので私の方からも一言、議論が活発になればと思いますので一言失礼いたします。別冊資料の本県の強みのまず１ページ目ですけど、世界平和に向けた発信力ということで、今まさに長崎、広島はこの点について力を入れるべきではないかと思います。一方で外から見ると、世界平和といいますと、どうしても長崎市というイメージが強いように思います。この世界平和というものを全県的にどうやって展開していくのかが、今後、県の１つの課題ではないかと思ったりしているところです。そのような意味ではいろんな地理的状況の違い等もあるかと思いますが、今後、この点、議論が必要ではないかなと感じたところです。

■桑原委員

今の黒木委員の意見についてなんですけども、長崎県は離島を含めて、やはり国境に繋がってい

る部分が多いです。歴史を振り返ると、対馬には金田城という古代の防人がいた時代の城址が残っています。それもやはり戦争遺構といいますか、そういった平和に対するアピールができる部分になると思いますし、明治時代になると、いろんな砲台の跡が残っている場所があるので、太平洋戦争以前の部分も含めると全県的には戦争遺構を巡ることによって平和を考えるきっかけになるような場所があると思います。そういったものを掘り起こし、長崎の大きな資源として平和を考えることをアピールしていければ良いのではないかと思います。

■黒木部会長

ありがとうございます。

今、対馬の事例をご披露いただきましたけれども、そういう意味では全県的にそういう知識も含めて、普及させていくということが必要ではないかと感じたところです。

■植松委員

私は東京から来ておりますので、長崎県の課題となるとこれはやっぱりちょっと規模も大きいし、外から来てあんまりよくわからないところもあるので、むしろ中にいらっしゃるとあまりにも当然過ぎてわからないような魅力とか、強みってというのは、意外と外から見た方がわかりやすいという観点でこちらの方が私の何ていうか付加価値があるんだなと思って、こちらの方についてお話をさせていただきたいと思うんですけども。

ここにも書いてますけども、まず平和というのはこれ非常に大事なキーワードであることは間違いないと思います。ただ、なかなか政治的なメッセージ性も強いし、まとめていくのも簡単ではないし、一番のやっぱり今回の計画のやはり稼ぐ力、どうやって経済を高めていくかという観点でいくと少し脇役かなという感じで、これはこれとして議論してくとして、やはりどうやって経済力を高めていくか、経済力を高めていくと、例えば、県外に出る人が少なくなる、外からやってくるといことで、長崎県が持っているいろんなポテンシャルをどういうふうに顕在化して、それを経済ビジネスに持っていくかという観点が、このにぎわいというところのやはりバックボーンなんじゃないかと思います。

そういう観点でいうと、ここに書いてある通りです。個性溢れる離島、豊かな自然とか、非常に東京から来る良いなと私も長崎県は何十年ぶりに来たんですけども、街は随分いいなと思っています。ですから、これを多分議論されたと思うんですけども、どうやって上手くアピールして、アピールするのも、多分日本の国内でアピールするっていうのはこれどこの県もやってる話ですね。熊本県とどういうふうに違うんだ、大分県とどう違うんだ、これやっぱりなかなか差別化というのは、苦労が多いだろうと。

そういった他の九州や西日本にない観光資源というのは自然以外に、やはり歴史とか、いわゆるこういうエキゾチックな雰囲気とか、これは、非常に僕は長崎県の強みだと思います。ですから、国内だけじゃなくて海外にどうやって伝えていくか、特にキリスト教のいろんな教会もたくさんありますし、これはもうすでにユネスコで登録されていますけども、こういったものを、いわゆるキリスト教圏とか、そういったところにうまくつなげていく方法はないか。サンティアゴ・デ・コンポステラ、スペインにありますけども、日本に来る海外の旅行客、特に欧米系の人達、比較的高学歴、高所得な人達。高野山とか、ああいう宗教に関わるというのものにもものすごく興味を持ちます。団体で来る人たちはバーツとインターとか行くんですけども、やはり文化を持った人達にはそういっ

たものを非常にアピールする。長崎県にはそういうものが、キリシタンのものがあるし、たくさんある。これは日本人というよりはむしろ外国人、むしろヨーロッパ系の方が受けるんじゃないかと思うんですけど、ただ単に教会いくつかありますだけでなく、物語をつけて、どういうふうに彼らが持っている文化と平仄を合わせていくかという、売り方というふうな感じなんですけども。さっと見ただけで、いろんなやり方があると思いますので、そういったものをうまくアレンジすると、にぎわいだけでなく稼ぐ力にもなるし、国際的な交流ということに繋がっていくので、こういったことから少しずつ、話、議論を始めていったら良いんじゃないかなというと思っています。

■黒木部会長

ありがとうございます。先ほどの星野委員の話から踏まえますと、いわゆる無いものねだりではなくて、あるもの探しをしっかりとされた方が良いのではないかと思います。その上で、今回、「稼ぐ」というと国内をイメージしやすいですが、そうではなく海外に打って出はどうかという非常にチャレンジ的な、斬新なご意見をいただいたと思いました。

■由井委員

今の植松ご発言につけ足しなんですが、やはり長崎県のよさをあまり県民の皆さん、ご存じないというか、私は長野生まれの長野育ちで、長崎県には30年住んでおりますが、その前にアメリカに7年おりました。あちこち旅行で回ることもありますけれども、こんなに安全でおいしいものがあり、しかも観光客擦れしてないというのは、やはり植松さんおっしゃったように、欧米の方にはすごく受けるコンテンツだと思うんですね。コペンハーゲンとかメルボルンへ行ったときに、例えば1週間滞在すると、交通費、例えば、長崎だと路面電車がありますが、トラムみたいなものとか、あと博物館、美術館、それもパックになって、もう行けば行くほどお得になるみたいな、そういうチケットをもう大変有意義に使うことができるんです。ただし、そういう形にしますと、やはり長崎市内だけになってしまう。皆さん、最近よくテレビにも出ますのでご存じかもしれませんが、ギリシャのサントリーニの夕日がもう世界的に美しいと。行ってみました、私も主人も何が美しいんだろうという感じで、なぜここにそんなに人が集まるのか。うちの主人が言うには、多分ヨーロッパの人は、海に夕日が沈むというのをあまり見る機会がないのだろうと。

私仕事で琴海の方に行きましたけど、外海の夕日がさっきも全体会でありましたけれども、外海の夕日はもうサントリーニによりこの何倍も綺麗なんですね。そういうことなんか長崎の方もご存じじゃないし、今そういう長崎市とか、この周辺じゃなくてもっとコアな旅行したい方が増えてると思うんです。でもそうすると、今度は車で行くしかない。日本は右ハンドルです、そうするとなかなか運転もしづらい。その時に、地方の良い場所、グルメがある場所にどういうふう集客するか。それはやはり国外国内の両方にいえることではないかなと思います。あと自分の話をする、やはり外国に出たときに行った先で博物館を見て、さらにそこで物を食べられるというのがすごく魅力なんです、長崎なかなかないですね。歴史文化博物館も来場者数に対して食べるスペースがあまりない、ペンギン水族館も同様に感じます。それはやはり、家族連れでもあれば大変億劫になります。

これだけ美味しいものがあるので、グルメ、移動、さっき植松さんおっしゃったその物語性とか、

なんかパックで結構楽しめるような、そういう仕組みを考えたらちょっと良いのかなという気がいたしました。

■黒木部会長

インバウンドを含めまして、長崎に来ていただいた後、どうやって県内を回っていただくかということも含めて考えないといけない、ということかと思います。

■松岡委員

私自身が今スタジアムシティの戦略とか企画、発信を担当している者なんですけれども、やっぱり、にぎわいというところで、前段知事からありましたが、シビックプライドを醸成していくっていうのが、かなりフックになるっていうのは、私もこの地域創生をやる上で、すごく思っていたことです。私自身は、これまでのキャリアは銀行、テレビ局で、今この地域創生×スポーツというのをちょっとやっているんですが、それはずっと長崎にあります。やはりシビックプライドの醸成が必要だなと思うのが、例えば福岡の方とかは、福岡すごい良いところやけんねって言うのですが、長崎の方って、こう、長崎なんも無いけんっていうことがあると思うんですよね。だから僕はそれがすべてだと思ってて、そこが、いや長崎こんなところだからって誇りに思えるところをちゃんと作っていくことが非常に重要なのかなと。そうすることで自分が誇れる長崎に残ろうと思うし、ま誇れるものをしっかり僕らの方で磨いてあげることで、そこに仕事生まれて交流人口とかが増えてくるのかなというふうに思っています。

別紙の方で本県の課題と強みというのをまとめていただいていると思ってまして、やり方が大きく見ると二通りあるのかなと思ってまして、もともと本来無い部分、この課題としてある部分をしっかり作ることで交流人口を生むのか、本来もともとある部分、本県の強みをしっかり活かすことで、交流人口を生むのかっていう2つがあるのかなと思うんですけれども、このにぎわいということにおいては、もうお2人が話された通りで、本当に長崎が持っているもの、若者を含め、県外国外の皆さんが、長崎ってすごいよねって思えるものを我々はもっと強みをしっかり見つけて出すことが重要なのかなと思っています。

本来長崎、本当に文化もありますし、福岡とかとも比べて、そういう歴史情緒がまだ残っている、食事本当においしいですし、逆にそういうものが多すぎて、要はキラコンテンツが無いといえますか、逆に一辺倒の県ってそれ単体でキラコンテンツで売り出すことができているので、割とこう見えている部分があるのかなと思うんですが、我々も長崎すごく多い優位なところ持っているものの、なんかちゃんとこう取捨選択、もちろん全て伝えないといけないとは思いますが、我々の方で取捨選択といいますか、優先順位を付けてしっかりと発信して、継続していくことが重要なのかなと思っています。

そういった観点で、我々この長崎、若者が、県外国外の方が長崎ってすごいところだよって思えるものって、歴史なのか、文化なのか、自然なのか、食なのかみたいなものを検討できると良いのかなと思ってます。個人的には、長崎固有の魅力というところは、やはり離島とかもそうですし、あとは歴史、あと加えて、ちょっと取り扱いが難しいというところとあれですが、やっぱり平和に向けた発信力というところも、長崎だからこそ持ってる部分で、もう発信することは、僕は長崎の使命なのかなと感じてるところがありますので、そういうところにも力を入れていく必要があるのかなと思っています。

■川浪委員

皆さんから話が出ておりますように、ある部分をどう活かして、このまちの活性化につなげていくとか、それとあわせて稼ぐ力をどうしていくかということで、一次産業長崎で言われたように、もう私たちは当たり前だと思ってるけども、よそから来られた人は、長崎のものは美味しいね、美味しいねと言われて、一次産業のものをなんで、この長崎での消費につなげて、まちのそこに携わる人を増やして稼ぐ力を増やしていかないかということです。先ほど、国交省の方からも出ました運転手の問題も、遠くまで運ぶよりも近く長崎の地元で消費していただいたら、非常に輸送コストも安くつきますし、また合わせて自分たちの今まで市場に出せないものも料理として出したら、規格外の商品でも、非常に付加価値を付けてから出してます。私も一次産業の農家の出身でございますので、長崎県も特に第一次産業、農産物ですけど、水産物も、近頃は五島に行ったらマグロも非常に美味しくて、どうにもならないぐらいです。私も魚大好きなんですけど、あるものをどう活かしていくかということで、今後つなげていったら、まちに携わる人も増えてくるし、所得も上がって可処分所得も上がってくるんじゃないかなろうかと私は思っております。

■黒木部会長

長崎の「魅力」をどうやって「ビジネス」につなげるか、ということかなと思います。

時間が押しておりますので、今まだご意見、発言をされたいという方も含めまして、恐れ入りますが、次の論点に入らせていただきたいと思います。

続きまして2点目ですけども資料の27ページ28ページになります。「政策の柱立て」と「基本戦略」についてということで、特に本部会と関連性が強い柱である「にぎわい」、そして「まち」を中心に、皆様には「基本戦略」の整理の仕方や文章表現などについて、ご意見を伺えればなと思います。資料28ページの右端には、主な方策や対策のキーワードというものがあります。具体的な取組の例が記載されておりますので、こちらをご覧くださいと各柱や基本戦略でどのようなことに取り組んでいくのかということがイメージしやすいのではないかと思います。また県の政策分野の枠を超えて様々な施策が相互に関連するというので、「にぎわい」や「まち」の柱以外のことについても、お気づきの点があれば、ご自由にご発言いただきたいと思います。

■傳委員

地域公共交通も担当しておりますので、この部会にはにぎわい、まちでありますけども、それ以外のくらしとか、そういったところとも連携しているということで、暮らしの中の健康で生きがいを持って暮らせる社会環境を作るというのがありますが、公共交通不便地域にお住まいの、特に高齢者の方、お一人で住まわれている方に乗合タクシーや、そういったものに乗る機会を提供させていただいています。基礎自治体の方と連携して、お出かけ支援といいますか、移動手段として乗り物がありますが、目的のほうが大事なので、いろんな方と買い物とか行く中で、コミュニティとの関わりを持ったり、生きがいを持って暮らせる外出支援や、いろんな分野で公共交通は連携をしていきたいなと、本日改めて思いました。

■黒木部会長

公共交通はいろんなところで議論されております。多分、私もそうですが、いずれ免許証を返納するということになりますと、公共交通のお世話にならないといけません。このようなことから、やはり公共交通は維持していかなければならないということもございますので、その点につきましても、いろいろとご議論、ご意見いただければと思います。

■高比良委員

長崎県を拠点とすると報道機関として、様々な取材を長年してきております。

全体的なお話なんですけども、県の総合計画となると、市・町、基礎自治体ができないことを広域的に結びつけてなさるっていう部分が主眼にあるということを理解はして参りました。その中で、例えば、にぎわいの中の地域の魅力で人を惹きつけるという部分に関しては、どこの自治体もやろうとしていることで、この場合、県としてどういうことをするのかとなったときに、もう少しゾーニングをして、例えば長崎エリアだと観光で稼いでいくとか、島原半島だと１次産業、食の魅力で稼いでいくとか、そういう、にぎわいをちょっとゾーニングして考えた方がいいのではないかと思います。

その中で、それぞれの場所に行ってもらうためにはどうしたら良いのかというのが、先ほどから出ている交通弱者の問題だと思います。もう現在長崎県でも長崎空港から長崎市に向かうバスは多々ありますが、県北に行こうとしたり、島原半島に行こうとしたりすると、もう乗り継ぎをしなければ行けないとか、交通公共機関を使って、ダイレクトで行ける方法というのはかなり悩ましい問題があると思います。そういう中で、総合計画の中で、どう公共交通ネットワークを活用しながら、人に長崎県のにぎわいを享受してもらうかという部分も必要だと思います。

一方で、少し気になったのが、本県の課題の資料の中で、若者・女性の流出の部分で政策展開の視点、方向性の中に、若者・女性に魅力的な雇用の場の創出とあるんですが、よく高校生のそういう地元企業を知る機会とか様々なキャリア教育の取材をする場面でよく聞くんなんですけども、長崎で自分が学びたい進路、学校とか専門機関というのがなかなか無いからやっぱり県外の学校を選んでしまうという話をよく聞きますので、雇用の場の前に、学ぶ場ということも課題の１つとして認識していただけたらということです。

■黒木部会長

地域の魅力、ゾーニングの話、交通弱者、そして学ぶということの重要性ということについてご意見いただきました。

■蛭子委員

長崎県の離島振興協議会の事務局長なんですけども、長崎県は皆さんご存じかと思うんですが、全国１位の有人島の多さです。全国の有人島というのは 256 あるのですが、長崎県はそのうちの 51 ございまして、全国１多いところでございます。これまで県の施策国の施策とか、島に優位な法律等をいろいろ作っていただいて、実施していただいているのですが、今私どもの離島振興協議会、県内 21 市町村あるんですけども、そのうちの 10 市町が、この離島振興協議会、離島に関係する市町でございまして。何を言いたいかと言いますと、今一番私どものこの協議会で課題になっているのが、この離島振興法、有人国境離島法というものがあるのですが、このどちらも時限立法でございまし

て10年に1回更新或いは新たに作っていくということをやっております、1つの離島振興法の方は令和4年度に新たな離島振興法ができたところでございます。

もう1つの有人国境離島関係の法律ですが、これが令和8年度末でその時限が切れるということになっておりまして、これが切れると、長崎の島、要するに先ほど10市町が離島の市町ですけども、そのうちの7つの市町が有人国境離島法に属する市町になります。例えば五島、新上五島、小値賀、壱岐、対馬あたりがそうなんですけども、この有人国境離島法が、もう更新されない、延長されないということになりますと、何が起こるかということ、今この有人国境離島法で活用されてる方法は、島の住民さん方の交通費、或いは輸送費あたりがメインで使ってるんですけども、この法律が更新されないと、これまで有人国境離島の交付金というのは50億あったのですが、これが一斉になくなると、今言ったようなお金を各市町が工面できない、そこに住んでる住民の皆さん方も大変苦慮するということになっておりますので、私どもの協議会では7年度、8年度にかけて、ぜひこの法律を延長ということで積極的に活動して参りたいと思いますので、皆さん方も何かございましたら、ご協力の程よろしくお願いできればと思っております。すみません、少し方向性と変わってるんですけども。

■黒木部会長

長崎県の課題として離島振興というのがありますが、視点を変えたと、人がそこに住んでるからこそ国境が守られてるという意味では国の課題でもあると言えるのではないかと思います。県の方から、国の方にアピールしていただくということもお願いできれば幸いです。

■川浪委員

私、防災士の立場でちょっと話をさせていただきます。

まちの方で、頻発する激甚化する災害ということで、先ほど知事の方からありました国の予算を取りまして、消防庁の事業で、自主防災組織の活性事業で取り組んでおります。県の委託を受けまして、6年度、7年度ということで、今8市町回っております、長崎県の自主防災組織率を80%以上に上げようということです。災害の時、生命を守る最大の武器は人の繋がりでですね。人の繋がりが希薄なところは、人的被害が非常に多いです。益城町なんか、あれだけの大きな災害がありましたけど、あそこはものすごく繋がりが強くて、私は繋がりが強いところ昭和の町みたいということです。皆さんが日頃から地域の繋がりがあのような、触れ合いのあるまちづくりをどのようにして維持していくかということが、今後、非常に大事になってくるんじゃないかなろうかと思っております。

それで私どもも微力ながら今、県内もいろいろ離島も含めて、対馬や新上五島とか、いろんなところも離島も回ったりしておりますけども、今度、また来月はシンポジウムも開催します。少しでもお役に立ててもらって、災害から命を守るためにどうしたらいいかということです。それに取り組んでおります。皆さんも地域の触れ合いをぜひ大事にしていきたいと思っています。私も自治会長として、いつも挨拶できる関係を作ってくださいということです。品物受け渡しよりも、そちらの方が大事ですよと、朝からおはようございます一言で隣近所、良いですよと言っております。どのようにして、まちを維持していくかということも大事になってくるんじゃないかなろうかと思っています。決してハードでは人の命は守れません。以上でございます。

■黒木部会長

私も防災士の資格を持ってるものですから、私が言いたかったことを言っていたきましてありがとうございます。制度云々も大事ですけども、やはりコミュニティの絆、こちらが非常に大事だということをお話しいただいたかなと思います。

■桑原委員

首都圏からの移住促進という部分で気になったんですが、やはり長崎に隣接する県、離島に関しては特に壱岐対馬は福岡県であり、島原半島は熊本県と繋がりが深い。県北は佐賀県ということを見ると、やはり九州をもっと意識して、九州からのそういった移住促進のプロモーションといいますか、もっと繋がることを意識するような形での呼びかけも面白いのかなと思いました。特に壱岐は、今回高校野球で注目されると思いますし、今後そういった部分で、取り組みとしては、首都圏からというよりも、まずは九州の人から選んでもらうということ意識された方が良いのではないかなと思います。あと観光客の方に対して、長崎の方が親切だっていう、ちょっと都市伝説みたいに感じるんですけども、実は意外と冷たいんじゃないのかなって感じるがありました。先週所用で佐賀に行きましたら、佐賀市で大きなイベントがあったんですけども、佐賀駅全体からウェルカムな感じがあって、そのアーティストもとても喜んで話していました。佐賀の方たちがファンに対して、来てくれて嬉しいということアピールされており、それがお土産屋さんから会場や駅まで全部、そういった歓迎バナーがあり盛り上げていました。長崎もV・ファーレン長崎やヴェルカという他県からのサポーターの方いらっしゃる機会もあるので、交流促進ということを見ると、長崎の人も、長崎は魅力があると自信がありすぎて、言葉はちょっと悪いのかもしれないですが、胡坐をかいているんじゃなくて、もっと自分たちから来県者の方々へ感謝の気持ちを表現することが、行政を含めて全県的に取組としても必要ではないかなと思いました。

■由井委員

先ほどの防災のことで、付け足しなのですが、地域の繋がりが大切、本当にそう思います。

私長与町と長崎県で、男女共同参画推進員でお手伝いさせていただいてるんですが、地域のきずな繋がりというものと、アンコンシャスバイアスといいますか、その女性の息苦しさというのが、バランスをとるのが難しい。自治会活動なんか自治会長は男性が、そして各家庭を訪問する等の活動が女性という場合はまだまだ多いんですね。長与町においても。若い女性が流出してしまう、長崎住みたくないという、その理由の1つに地域の息苦しさということにあるのではないかなということに耳にしたことがあるんですね。長与町は割と今、長崎市のベッドタウンということではありますけれども、きずな、地域の良さと、息苦しさ、そのバランスの取り方っていうのがとても難しいかなと思ひまして、この基本戦略のところに、さっき全体会議では多様性ということ矢内さんがおっしゃってるんですが、寛容というような意味合いを少し考えていただけたらかなと思います。

■黒木部会長

地域のきずな、これをひっくり返してみれば、息苦しさに繋がっていくのではないかな、というご指摘かと思ひます。ここでやはり、寛容性、或いは多様性の醸成にもどうやって取り組んでいくかが重要である、ということかと思ひます。

ここで、地域の安全についての話が出てきましたので少しコメントさせてください。先日、宮崎の方で震度5の地震がありましたが、実はまさにその時、宮崎の方におりました。非常にびっくり

したんですけれども、南海トラフの被災対象地域を考えたときに、長崎は入っていないんですね。そういう意味では、長崎は安全な地域だということをアピールしてもいいのではないかと思います。言い方が悪くなるかもしれませんが、これから 30 年の間に南海トラフが起こる確率を考えると、積極的に移住者を募るということもあっていいのかもしれませんが、ただし、それはやはり被災対象地域に対するマナーもありますので、その辺りはなかなか難しいと思います。しかしながら、少なくとも南海トラフの被災対象地域に入っていないということは大きな魅力ではないかなと感じたところです。

あと先ほど、地域のきずなの難しさというお話がありましたが、一方で、先ほどの地域の魅力のところでゾーニングという話がありました。きずなの別の表現にソーシャル・キャピタルというような言葉がございます。地域のきずな、ソーシャル・キャピタルの醸成の仕方も、やはり地域によって、特性によって変わってくるということが、神戸市の報告書で言われているところです。そういうことを鑑みますと、各市町或いは各地域において、その地域のあり方を考える、その地域のソーシャル・キャピタルを醸成するにあたり、一つの価値観ではなく多様性を含んだところでどうやってそのきずなを作り、ソーシャル・キャピタルを醸成していくかを考えていく必要があるのではないかと思います。一斉によいドンというのは難しいかと思いますが、言い方悪いかもしれませんが、先ほど地域間競争という話がありましたが、地域である意味ちょっと競争していただいて、その中で、それこそ長与町とか、長崎市などがリーダー、模範になっていただくような形になってくると、いわゆる協創といいますか、それぞれが刺激し合うことでより良い地域が作れるのではないかと、雑駁ですけど感じたところでございます。

話を戻しますが、やはり南海トラフの被災対象地域に入っていないということは、大きな魅力ではないかと思います。しかし、そのアピールの仕方は非常にデリケートであり問題もあろうかと思いますが、念のため少し付け加えさせていただいた次第です。

その他、いかがでしょうか。よろしかったでしょうか。

全体会議では、最初はなかなか意見が出ず、どうしたものかなと思っていましたが、部会では、非常に熱のこもった有意義なご意見を本当にありがとうございました。是非、今回のご提案を事務局の方では受けとめていただいて、今後、発展させていただければ幸いです。

あと 3 回程度、このような部会が予定されております。さらに議論を深めて、新たな総合計画策定の一助になるように、頑張っ参りたいと思っております。そういう意味では、本日は、委員の皆様には、非常に力強いご意見をいただきまして誠にありがとうございました。

また引き続き、よろしくお願い申し上げます。

それでは進行の方事務局に引き継ぎたいと思います。よろしくお願いいたします。

■（事務局：川端企画部次長）

黒木部会長どうもありがとうございました。

また部会委員の皆様におかれましては、熱心なご議論いただきまして、誠にありがとうございました。今日いただいた意見につきましては先ほど知事も申ししておりましたが、次回の部会に向けて私たちの方でしっかりと整理をさせていただきたいと存じます。それではこれもちまして、にぎわいまち部会を閉会させていただきます。

次回の開催につきましては、4 月から 5 月ごろを予定しておりますが、後日委員の皆様の日程調整をさせていただいた上で、改めまして、ご連絡をさせていただきたいと存じます。

また本日の全科全体会及び部会の議事録につきましては、後日皆様に送付をさせていただきますので、お目通しのほどどうぞよろしくお願いいたします。

また次回の部会までの間に、現在実施しております、県民アンケートの結果なども、今後の意見交換の参考となる資料がございますので、ご提供をさせていただきたいと存じます。

それでは本日は全体会より長時間にわたりまして、誠にありがとうございました。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。